

生涯現役スイマー



若潮国体での迫力ある泳ぎ



平本 武男さん(千葉市)

広島県出身。現在、成田国際高校校長。千葉県代表選手として15回、指導者として11回国体に出場。マスターズ水泳(60~64歳)世界記録保持者

このコーナーに登場してくれる人を募集します。くわしくは広報課(☎20-15503)へ。

教員生活をスタートさせた23歳のときに若潮国体に出場し、200mバタフライ、100m自由形、400mメドレーリレーで三冠を獲得した。

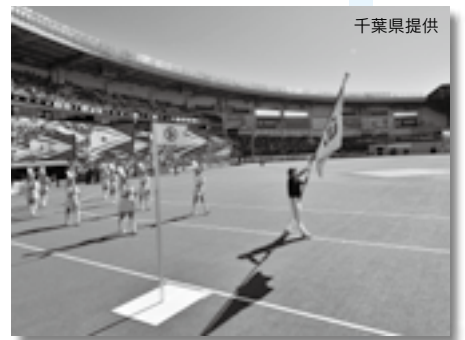
あれから37年—違う形で、再び地元開催のゆめ半島千葉国体の舞台に戻ってきた。今度は、総合開会式の大旗保持者として。

開会式当日は、台風の影響で朝からどしゃ降り。雨は式典前にあがったが、強風が吹き続けた。

「大会旗は何と7・8kg。体力には自信がありました。さすがにしんどかったですね。でも、無事に役目を終えたとき、ほっとすると同時に、いよいよ国体が始まるんだと鳥肌が立ったのを覚えています」

60歳で迎えた今回の国体には、実は選手としての出場を目指していた。12年ほど前からプールに戻り、4000mを週2、3回泳ぐという生活を続けてきた。残念ながら、わずかに0・3秒の差で標準記録に届かず、国体予選を兼ねた千葉県選手権への切符を逃した。

「悔しかった。37年ぶりの地元開催で



総合開会式で行進する平本さん(右)

すし、若者に交じって泳ぐ姿を、生徒たちに見せたかったんですけどね」

選手としての国体出場という念願はかなわなかったが、日々の鍛錬の成果は、記録が如実に物語っている。今年4月に行われた日本マスターズ水泳短水路大会では、100mバタフライ、50m背泳ぎ、100m個人メドレーで世界記録(60~64歳の部)を樹立。日本記録は、何と30個持つという。そんな鉄人は、堂々と「生涯現役スイマー」を宣言する。

指導者としてもインターハイ・国体チャンピオンなどを育ててきたが、教員生活も今年で終わる。

「今後は、ボランティアとして小中学校などで水泳を教えたい。水泳から学んだたくさんの経験や泳ぐことの楽しさを、子どもたちに伝えたいですね」

第二の人生を見据える瞳は、希望に満ちた少年のようにキラリと輝いた。

編集後記

今年から成田市特別観光大使として活躍している、ゆるキャラ「うなりくん」。市内のイベントでもひっぱりだこで、いろいろな場所で愛嬌を振りまいています。広報紙にも頻りに登場しているので、皆さんにはだいぶ顔なじみになってきたと思います。中学生議会の記念撮影(3ページ)でも堂々と主役の座に。ただ、この顔を見ると憎めないところが「ニクイ」ところ。この「うなりくん」が10月に滋賀県彦根市で行われた「ゆるキャラまつり」の携帯版人気投票で何と第8位にランクイン。とうとう全国区の人気者になってしまったのだ。うな。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。